

目的 従来、市街地に設けられた大学キャンパスが、環境の改善を求めて郊外に移転する例は多い。大学キャンパスの移転にともない、学生の住環境にも大きな変化をもたらしている。本報告では、市街地から郊外へキャンパスが移転した場合の、主として大学生の住生活について調査し、今後郊外に建設されるキャンパスとその周囲環境のあり方について検討する。

方法 広島市内のキャンパスで学んだ後、郊外である東広島市のキャンパス周辺に転居した大学生を対象として、アンケート調査した。調査時期は1990年8月～9月、有効回答数は男女計507部であった。主な調査内容は、転居前後の住居、周囲環境、生活状況、交通手段、および大学生の望む住生活などについてである。

結果 ①住居について；広島市内では風呂なし住居にいた学生が約50%であるのに対し、東広島市では約80%が風呂つきアパートに住んでいる。市街地から郊外のキャンパスに移ることにより、生活費に占める家賃の割合がかなり上昇している。②生活状況および周囲環境について；駐車場、買い物、アルバイト、サークル活動などの利便性において、2つのキャンパスの間はかなり差が認められる。③通学方法および日常交通手段について；広島では約50%の学生が自転車であったのに対し、東広島では自転車や原動機付自転車以上に自動車が多く約50%となっている。④利用施設について；スーパー、商店、郵便局および銀行などが、広島では1 km以内に60～80%存在していたが、東広島では5 km以内に存在することとなり、かなり便益性が損なわれている。